

【枕草子】

【】(うつくしきもの)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

うつくしきもの。瓜にかきたるちの顔。雀の子の、鼠鳴きするにをとり来る。二二三つばかりなるちの、いそぎて這ひ来る道、いとちひさき塵のありけるを、目なかに見つけて、いとをかしげなる指にとら入て大人などに見せたる、いとうつくし。頭は尾判ぎなるちの、目に髪のおほ入るをかきはらさず、うすかたぶきて物など、見たるも、うつくし。

(枕草子)

問一 「とら入て」「を現代仮名遣いに改めよ。

問二 「見たる」の主語として最も適当なものを次の中から選べ。

ア 頭 イ ち ウ 目 エ 物

問三 作者が「うつくしきもの」として考えているものは、どのような共通性をもっているか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 小さくて弱々しいもの

イ 小さくて美しいもの

ウ 小さくてかわいらしいもの

エ 小さくて頼りないもの

問四 この文章は『枕草子』百五十一段の一部であるが、この作品が作られた時代はいつか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 江戸時代

(沖縄県)

「解答」

問一 とらえて

問二 イ

問三 ウ

問四 イ